



今、注目されている古くて新しい工芸素材の紹介です。

陶器・漆器・ガラス器など日本の代表的な和食器の素材に並ぶ新たな素材の紹介です。

デザイン性に優れた日本の現代工芸の世界で今、注目されている素材があります。それは錫(スズ)です。錫は古くて新しい素材と言われています。日本で 1000 年以上も前から高貴な器として使われてきた錫器(スズキ)が、なぜ現代になってもう一度、見直されるようになってきたのか？

それは、錫の素材としての3つの不思議な特徴と、現代の工芸作家が生み出す新しいデザイン性によって再び注目されてきています。

錫には大きく3つの特徴があります。

【錫の3つの特徴】

- ① 金属なのに錆びない
- ② 柔らかく溶けやすいので作家が扱いやすい
- ③ 錫器に入れるとお酒の味をまろやかになる



特徴① 錫は金属であるにもかかわらず空気中でも水中でも錆びることがない。そのため人体に悪影響を与えることがなく、長年、高貴な素材として使われてきた。

特徴② 錫は、他の一般的な金属素材と比べると溶けやすく、柔らかいので削る、磨く、曲げる、などして変形させることができる。その為、工芸作品として作家の独自性を持った表現が可能。

特徴③ 錫は昔から水を浄化する作用があるといわれてきました。さらにお酒の味をまろやかにすると云われて主に酒器の材料として使われてきました。

以上のような特徴を持つ錫を使った現代工芸品が最近、見直されてきています。これまでは錫器が、購入できる店も限られていたため、あまり馴染みのなかった若い世代もインターネットなどで錫の魅力を知り注目し始めています。これまで伝統的な形を作ってきた錫作家たちも新たな表現を模索して現代的なデザインの錫器を作り始めています。まだ、錫の特性を十分に生かした洗練された錫器を作る作家は多くありませんが、ほとんど飽和状態にある他の工芸素材と比べると今後の可能性を感じさせる素材であることは間違いありません。

《参考ページ》

大阪錫器 <http://osakasuzuki.co.jp/> : 日本の錫器の最大手。生産の効率化で錫器の普及に努めている

錫右衛門 <http://suzuemon.com/> : 作家が作る錫の酒器・食器専門店

◆本件に対するお問い合わせ先◆

担当者不在の場合は E-mail でご連絡下されば幸いです。

錫右衛門 SUZUEMON 小泉和史 住所: 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町早稲田 13-19

TEL & FAX: 075-957-0888 MAIL: info@suzuemon.com URL <http://suzuemon.com/>



作家紹介



鑄造一筋 40年 金工の匠 錫作家

小泉 均 Koizumi Hitoshi

1948年に京都府大山崎に生まれる家業である銅器鑄造に従事する間、金属を流し込む鑄造技術を生かして作家活動も積極的に行い公募展などにも多数出品し京展や日展などでも入選を果たす。

その後、徐々に本業である銅器鑄造に専念し公共施設に置かれるオブジェや神社仏閣などに奉納する銅像の制作に多数携わる。(金閣寺(鳳凰)修復など)

近年は、鑄造技術を生かして、より人の生活に密着した身近なモノを作りたいという欲求から主に純錫(スズ)を使った食器や酒器を制作している。

現在、京都府工芸美術作家協会会員

《小泉均 作品の魅力》

小泉均氏の作品の魅力は、柔らかな形にある。あえて表面に微細なザラつきを残してあるのは持った人の手触り感を考えてとのことだ。磨き過ぎると表面が鏡のようになってしまい錫の素材が持つ味わいが無くなってしまうと作家は言う。

繊細に磨き上げられた表面と、使い手のことを考えた柔らかな形は、金属でありながら陶芸の手びねりのような丸みと柔らかさ、そして温かみ感じさせる。



◆本件に対するお問い合わせ先◆

担当者不在の場合は E-mail でご連絡下されば幸いです。

錫右衛門 SUZUEMON 小泉和史 住所: 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町早稲田 13-19

TEL & FAX: 075-957-0888 MAIL: info@suzuemon.com URL <http://suzuemon.com/>